

## 第三者評価結果表

施設名 山口育児院

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
<b>1 養育・支援</b>						
<b>(1) 養育・支援の基本</b>						
1	1	○				毎日小学生以上の子どもと職員が「反省会」として、個別に話し合いの時間を持っている。継続的に話し合いの場を持つという試みをしていることで、子どもの言動や感情をしっかり受け止め、子どもを理解しようとする姿勢が見られる。
2	2	○				子どもへの支援の基本的な姿勢として、まず個別に関わろうという姿勢が職員のヒアリングで聞き取れた。また毎日の「反省会」の実施を通して子どもの要望を聞く機会を確保している。
3	3	○				自立に向けてできることを、まず職員がやって見せて、子ども自身でできるように支援しているところが評価される。
4	4	○				ボランティアに学習を支援してもらうなど、学びについても意欲的に取り組んでいる。
5	5	○				起床してまずは身の回りの清掃をするなど、様々な生活技術が取得できるように支援している。
<b>(2) 食生活</b>						
6	1	○				毎年嗜好調査を実施し、毎月の誕生日会では子どもの希望メニューを聞き、他の子ども達が職員と一緒に食事を作っている。食事は生活の基本だという姿勢で食育に取り組み、工夫をしている姿勢がヒアリングから聞き取れた。
7	2	○				「鍋がしたい。」という子どもの要望によって献立を変更する等、少人数だからこそできる状況の中で、家庭に近い食事を心がけている様子が伺えた。子どもの心身の状況、日々の体調に配慮した食事を提供できるようさまざまな取組を行っている。
8	3	○				畑で子ども達と一緒に野菜を栽培し、その野菜を食材にして調理をしたり、パティエ経験のある職員と一緒にお菓子作りをしたりと食育を通していろいろないろいろな経験ができるよう工夫している。また食事には職員がつき、食事マナーが身につくよう、声かけを行っている。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
<b>(3)衣生活</b>						
9	1	衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	○			靴が濡れた場合には、乾燥機にかけるなど臨機応変に対応していることが伺えた。
10	2	子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。		○		衣類の購入については、発達段階や自分の好みに応じて購入できる機会を設けている。衣替えも行い、自分の身体や季節にあった衣類を身につけることができるようにしている。
<b>(4)住生活</b>						
11	1	居室等施設全体がきれいに整美されている。		○		居室は子どもが自分で整理整頓できるように収納スペースがある。居室は子どもが行い、整理整頓が十分でない子どもについては、子どもと一緒に職員が掃除を行い、掃除等の習慣が身につくように支援しているが、まだ十分に子どもの身につけていないことをヒアリングから判断した。
12	2	子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	○			一人部屋ではないが、机・ベット・収納家具を利用して、個人の空間がしっかり確保できるような作りになっている。
<b>(5)健康と安全</b>						
13	1	発達段階に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理ができるよう支援している。	○			手洗い場には、個々に常に新しい手拭きタオルが用意され、手洗いの習慣が身につくような工夫がなされている等、子どもの発達段階において、自己管理ができるよう、支援している。
14	2	医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	○			健康に関する記録が個々に整理されていて、子どもの健康状態を職員がきちんと把握している。また、日頃から医療機関との連携は充分取られており、緊急時に対応できる体制ができていることをヒアリングで確認できた。
<b>(6)性に関する教育</b>						
15	1	子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。		○		発達段階に応じて子ども達への性教育を職員が図書館で本を借りてきて、1対1で性教育を行っているが、特定の職員だけであり、今後の職員へのひろがり期待したい。
<b>(7)自己領域の確保</b>						
16	1	でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。		○		個人の所有物が保管できるよう、個々に収納スペースがあり、記名をしている。お箸や茶碗が管理上、共同の食器を使っているということなので、今後、個別所有ができるような工夫を期待したい。
17	2	成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。			○	アルバムなどの記録については、担当職員により差があり、担当任せとなっているため、c評価とした。
<b>(8)主体性、自律性を尊重した日常生活</b>						
18	1	日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している		○		子どもが主体的に行事の企画・運営ができるように自治会の設置の声が職員から挙がってはいるが、十分ではない。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
19	2		○			休日に、午前中から外出し、施設で昼食を摂らない場合は「特別外出」として許可しているが、その回数が月に1回に制限されている
20	3		○			小遣い帳をつけさせるなどの支援はしているが、管理は基本的に職員がしている。
<b>(9) 学習・進学支援、進路支援等</b>						
21	1		○			居室で勉強できるように配置の工夫がある。希望する子どもに関しては、塾に行くこともできる。他の業務との関係や、職員の人数が取れない中で、個別の学習に職員がつくような努力は見受けられるが十分とは言えない。
22	2	○				進路選択にあたっての情報収集をもとに、進路決定にいたるまでは、担当職員を中心に保護者、学校、児童相談所と連携を取りケース会議を重ねて、子どもが自己判断できるような支援を行っている。
23	3		○			資格取得や高校生へのアルバイト奨励等、自立に向けての支援を子どもに応じて行っている。職場実習や職場体験等の機会を増やすため、実習先や体験先の開拓を積極的に行う取組を今後検討していただきたい。
<b>(10) 行動上の問題及び問題状況への対応</b>						
24	1		○			問題行動が起こった場合、速やかに対応できる体制があり、脱暴力委員会を組織し、施設全体の問題として取り組んでいる姿勢がヒアリングで聞き取ることができたが、外部機関との連携では改善、工夫の余地があると思える。
25	2	○				小学生以上に実施している毎日の「反省会」で個別に話し合う時間を設けており、子ども達の様子を適宜把握できる体制がある。また、問題行動が起こった時は施設長が中心となり、職員が適切な対応ができる体制も整っている。
26	3	○				緊急時対応マニュアルが職員間で周知されていて、不測の事態が起こった場合も、速やかに対応できる体制がある。児童相談所との連携も適宜行われ、連携も密であることをヒアリングで聞き取ることができた。
<b>(11) 心理的ケア</b>						
27	1	○				常勤の臨床心理士が、1週間～1ヶ月の間隔で、全員の子どもと面談している。
<b>(12) 養育の継続性とアフターケア</b>						
28	1		○			児童相談所を通じて、できるだけ多くの情報を得られるように連携を密にし、子どもが不安にならないような配慮を行っている。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
29	2	○				退所後3年間は、1年に2回子どもと保護者に面会をすることになっていて、フォローアップの体制が整っている。またこの事を退所時に保護者と子どもに伝え、退所後のフォローアップに保護者が協力していただけるような工夫も行っている。
30	3	○				個々の子どもの状態に応じて、児童相談所や保護者と十分な協議を経て、措置延長等の対応を行っている。
31	4		○			退所後の子どもへの対応はできる限り行っているが、受け身的であり、退所者が集まれる場づくりなどの取組は十分ではない。
<b>2 家族への支援</b>						
<b>(1) 家族とのつながり</b>						
32	1		○			市の子ども課と連携しているが、十分ではない。
33	2	○				面会、外出、外泊についてのルールはあるが、保護者の要望に応じて柔軟な対応を行っている。また、施設からの働きかけを行うこともある。施設内に親子訓練室が整備されていて、積極的に取り組んでいる。
<b>(2) 家族に対する支援</b>						
34	1		○			ファミリーソーシャルワーカーを中心に取り組んでいるが、業務が多忙なため十分に取組めるとはいえない。
<b>3 自立支援計画、記録</b>						
<b>(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定</b>						
35	1		○			アセスメントを行い、支援計画を立てているが、必ずしも実施できているとはいえない。
36	2		○			アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。
37	3		○			3か月に1回、担当職員と子どもとで振り返りを行っているが、十分ではない。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
<b>(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録</b>						
38	1	子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	○			ケース記録システムを導入し、多岐に渡る記録が整理されるようになり、職員の負担が軽減され、より細やかな記録ができるようになった。毎月の課題を振り返った結果を記録に残して、自立支援計画に基づく養育支援が行われていることが確認できた。
39	2	子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	○			管理体制を構築し、パスワードを設定するなど、適切に管理されている。
40	3	子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	○			定期的なケース会議の実施や、個人のパスワードの設定によるケース記録の閲覧ができる等、職員が情報を共有できる仕組みがある。

<b>4 権利擁護</b>						
<b>(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮</b>						
41	1	子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。		○		子どもを尊重した養育・支援について施設内で共通理解を持つための取組がなされているが、運営理念に明示されていない。
42	2	社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。		○		月2回のケース会議が施設長をはじめとした職員が参加して子どもの最善の利益を目指して日々の養育支援が行われているか検討がおこなわれているが、施設共通の方針は明示されていない。
43	3	子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。		○		職員間で慎重な検討や児童相談所と連携をした上で、子どもの発達状況に応じて知らせているが、手順や体制があり、組織的に取り組んでいる様子は聞き取れなかった。
44	4	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。			○	主任等に相談しながら、職員の判断で対応している。規程やマニュアル等は確認できなかった。
45	5	子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	○			朝夕の食事前に仏教式の礼拝を唱えるが強制ではなく、黙っている子どもにも何の不利益もない。また、これまでも休日に他の宗教の活動に参加することを認めている。
<b>(2) 子どもの意向への配慮</b>						
46	1	子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	○			意見箱は施設長のみが開けることになっており、実際に機能していることが確認できた。
47	2	職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	○			毎日の「反省会」で職員と子どもが話し合う機会を持つことで、職員と子どもが生活改善に向けて一緒に取り組んでいることが確認できた。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
<b>(3) 入所時の説明等</b>						
48	1	○				HPの開設、パンフレットの提示等を行っている。また、事務室横の廊下に子ども達の日常の様子を撮った写真を掲示し、保護者の要望に応じてその写真を渡す等の工夫を行っている。
49	2	○				入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。
50	3		○			子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。
<b>(4) 権利についての説明</b>						
51	1		○			子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。権利についての説明は行っているが、定期的な取組は行っていない。
<b>(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境</b>						
52	1		○			子どもが相談したり意見を述べたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。毎日の「反省会」が子どもの身近な相談方法になっている。子どもも相談する相手を選び、個室で相談できる現状は確認できたが説明文書までは確認できなかった。
53	2		○			苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。取り組んではいるが、保護者や子どもへの匿名アンケート等、積極的な取組は行われていない。
54	3		○			子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。子ども等からの苦情や意見があれば、会議や主任、施設長等に相談し対応している様子がヒアリングで伺えたが対応マニュアルは作成されていない。
<b>(6) 被措置児童等虐待対応</b>						
55	1	○				いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。体罰に関連する新聞記事の回覧や山口県被措置児童虐待対応マニュアルのセルフチェックシートの活用、会議での施設長からの注意等、あらゆる場面で取り上げ、体罰等の禁止を全職員で確認している。
56	2		○			子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいるが、防止について子どもへの周知がなされていない。
57	3		○			被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。被措置児童等虐待対応ガイドラインについて全職員は周知しているが、対応マニュアルは作成されていない。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
<b>(7) 他者の尊重</b>						
58	1		○			老人施設や他の福祉施設等との交流など、積極的な交流が望まれる。
<b>5 事故防止と安全対策</b>						
59	1	○				安全を確保の取組を組織として行っていることをヒアリングで聞き取ることができた。緊急時対応マニュアルも作成し、職員へ周知徹底している。
60	2	○				避難訓練を毎月実施し、AED、刺す又の配備、食料の備蓄等、様々な災害想定した具体的な安全確保のための取組を行っている。
61	3		○			ケース会議で、職員が危ないと感じている課題を見つけ対策を話し合っているが、組織としては取り組んでいない。
<b>6 関係機関連携・地域支援</b>						
<b>(1) 関係機関等の連携</b>						
62	1		○			施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。
63	2		○			担当職員やファミリーソーシャルワーカーが日常的に児童相談所と情報交換をしっかりと行っているが児童相談所の出席が定期的ではない。
64	3	○				担当職員と学校担任との連絡は密に行い、学校生活や施設での様子で気になることは、連絡帳等を活用してすぐに連絡を入れている等情報の共有、連携がとれていることが確認できた。
<b>(2) 地域との交流</b>						
65	1	○				単年度の事業計画として、地域との交流促進をあげている。施設の行事に地域の方を招待したり、清掃活動に参加する等、地域との交流に努めていることが確認できた。
66	2		○			地域の行事に施設を利用していただいたり、災害時の避難場所としての協力は行っているが積極的とは言えない。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
67	3		○			ボランティア担当職員を決め、ボランティアを受け入れ広報誌にもボランティア募集の案内を掲載しているが、マニュアルがなく、受け入れ体制の整備は十分ではない。
<b>(3) 地域支援</b>						
68	1			○		卒園生からの子育て相談を受けたり、地域の人が相談に来た時は対応した等の事例は過去にあったが具体的なニーズを把握する方法は確立されていなかったのでc評価とした。
69	2		○			短期入所支援事業を行う専用の部屋を用意し、ショートステイやトワイライト通所サービスを行い、広報誌にもPRはされているが十分ではない。
<b>7 職員の資質向上</b>						
70	1			○		基本姿勢が明示された基本方針や中・長期計画がないのでc評価とした。
71	2			○		過去の研修会参加状況や研修の内容を考慮して、年度当初に参加職員を決めて研修が実施されているが、職員一人ひとりの研修計画は策定されていない。
72	3			○		復命や復伝を行い、研修内容を共有化する機会はあるが、それが個別の研修計画の評価見直しにつながらず、次の研修計画に反映されていないのでc評価とした。
73	4			○		日々の引継ぎで現場の状況を把握し、施設長、副施設長、主任にいつでも相談できるようになっているが、体制としては確立していないという意見が聞き取れたので、c評価とした。
<b>8 施設の運営</b>						
<b>(1) 運営理念、基本方針の確立と周知</b>						
74	1			○		法人の使命や信条は長年引き継がれてきているが、それを明文化したものが無いので、C評価とした。
75	2			○		パンフレットには、「施設の目的」としての記述があったが、基本方針と言いがたいので、C評価とした。
76	3			○		単年度の事業計画は全職員に配布しているが、運営理念や基本方針が明文化されていないのでC評価とした。



【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
77	4			○		法人の理念が明文化されていないので、C評価とした。
<b>(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定</b>						
78	1			○		中・長期計画は策定していないので、C評価とした。
79	2			○		単年度の事業計画は策定しているが、中・長期計画を反映したものではないのでC評価とした。
80	3		○			事業計画は幹部職員で作成しており、全職員での作成や見直しの体制が構築されているとは言えない。
81	4		○			事業計画は、全職員に配布されているが、理解を促すための特別な取り組みはされていない。
82	5			○		事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。
<b>(3) 施設長の責任とリーダーシップ</b>						
83	1		○			処遇会議に施設長自らが出席するなどしていることは評価できるが、役割や責任について文書化等はなされていない。
84	2		○			法令等がリスト化されていない。
85	3	○				子どもの個々のケースにしっかりと目を通し、日々の子どもの関わりの中でもしっかりと役割を発揮されている。ケース会議に出席し職員へのスーパーバイズを行い、指導力を発揮している。
86	4	○				職員の定着率を上げるため勤務体制を見直したり、社債を購入して得た利益を経費に充てるなど、効率化と改善に向けて充分に取り組んでいる。
<b>(4) 経営状況の把握</b>						
87	1		○			各種研修会への出席等を通して社会的養護の動向の把握に努めているが、事業計画へ反映されていない。地域社会へのつながりを重視した取り組みは行っている。
88	2		○			運営状況や改善すべき課題について、職員の意見を聞きながら取り組んでいる。

【 評価項目 】		a	b	c	Na	判断の理由
89	3			○		外部監査が実施されていないので、c評価とした。
90	4		○			積極的に開示されているとは言えないので、b評価とした。
<b>(5) 人事管理の体制整備</b>						
91	1		○			児童養護施設の人員配置基準による各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員配置の充実に努めている。
92	2			○		人事考課が実施されていないため、c評価とした。
93	3	○				管理運営委員会で確認し、必要があれば職員会議で検討する仕組みはある。調理員の勤務状況を大幅に変更し、採用したという実績もあり、積極的に取り組んでいる。
94	4		○			職員の心身の健康に留意するとともに、職員が相談しやすい雰囲気づくりを心がける等積極的に取り組んでいる。
<b>(6) 実習生の受入れ</b>						
95	1		○			積極的な受け入れをしているが、十分な体制ではないため、b評価とした。
<b>(7) 標準的な実施方法の確立</b>						
96	1		○			業務手順があり、養育・支援の方法について会議で共通認識を持つよう確認を行っているが文書化されていない。
97	2		○			必要に応じて、会議で見直しを行っている。「反省会」で出た子どもからの意見を会議で反映している。
<b>(8) 評価と改善の取組</b>						
98	1		○			毎年の自己評価は実施していない。
99	2		○			課題を明確化しても、それが改善策に必ずしもつながっていない。